

令和 5 年 5 月 31 日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K00355

研究課題名(和文) 翻訳、雑誌メディアから辿る、近代文学における中国と日本の接点の研究

研究課題名(英文) Research on the interface between China and Japan in modern literature, traced through translation and journal media

研究代表者

秋吉 収 (AKIYOSHI, Shu)

九州大学・言語文化研究院・教授

研究者番号：90275438

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：研究期間中に、論文を15篇、招待講演を含む研究発表を14回、共著を3冊発表した。研究期間の大半がコロナ禍の下、国外は言うに及ばず国内においても図書館を始めとする研究機関が閲覧の機会を大きく縮小する中で、中国と日本の接点たる翻訳・メディアの徹底的調査を旨とする本研究は最初から大きな負の条件を課せられた。だがやや緩和された特に最後の2年間は、可能な限り現地に赴いて原資料を収集して成果を報告することに努めた。研究発表面でも、オンライン学会に積極的に参加することで、国際交流は平時をしのぐ成果を挙げる事ができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究代表者のこれまでの主たる研究対象である魯迅、中国近代文学を、翻訳・雑誌メディアという従来あまり重視されていなかった領域から原資料を駆使して徹底的に再調査するという研究方法は、結果として小さくない成功を収めた。研究期間中に執筆した研究成果は、「研究発表一覧」にも示されるように多岐にわたるが、特に魯迅周作人文学の土台としての雑誌メディアにおける新発見や、中国の近代文学が意外な面で想像されるよりもより深い交流を有していた事実の発掘などは、本国中国の研究者からも驚きを持って迎えられ、3冊の価値ある研究書に拙文が収録されるなど、確実に高い評価を得ることができた。

研究成果の概要(英文)：During the research period, he published 15 papers, gave 14 presentations including invited lectures, and co-authored three books. The majority of the research period was spent under the Corona disaster, and libraries and other research institutions in Japan, not to mention abroad, greatly reduced the opportunities for access to their materials. However, during the last two years of the project, when the conditions were somewhat relaxed, we made every possible effort to go to the field, collect original documents, and report our findings. In terms of research presentations, we were able to achieve results that surpassed those of normal times in terms of international exchange through active participation in online conferences.

研究分野：中国近代文学

キーワード：中国近代文学 日中比較文学 魯迅 近代文学雑誌 メディア

1. 研究開始当初の背景

近代文学における中国と日本との接点について、これまで数多くの研究が提出されてきたが、中国における日本近代文学の受容に関する研究は、意外なほどに進んでいない。日本において、日本文学の中国への進出に注目した研究は非常に少ない。一方、中国の日本文学研究においても業績が日本よりは多いとは言え、やはり盛んとは到底言い難い状況にある。またその研究視角はやはり往々にして中国の文学史に偏したものであり、日本文学の背景(特に雑誌・メディア)等への詳細な目配りが疎かになっている。こうした状況下、日本側からの研究が切に求められている。

2. 研究の目的

日本文学を中国文学の視点、つまり異なる文学観、歴史、制度からどのように選択・受容されたかを究明し、日本における認識との相違点等を分析することは、近代中国を照射するとともに、日本近代文学自体を改めて検証する意味でも、極めて有益なよすがとなろう。同時にその反作用として、中国がどう日本に受容されたかについて、これまでほとんど精査されたことのない、雑誌メディアから辿ることを企図する。

魯迅、周作人兄弟が編訳した、中国で最初の日本近代文学精選集『現代日本小説集』(1923年)についても、その重要性にも拘わらず、それへの関心は意外なほどに極めて低く、魯迅研究の上でもほとんど無視された状態(専論は中国では皆無、日本に一篇のみ)であることは意外の感が強い。まずは、日本近代文学移入の先駆けたるこの作品集について、魯迅周作人が依拠した原版本の跡付け、整理(いまだ明らかになっていないものも複数あり)を可能な限り行う。同時に、『現代日本小説集』の前段階として、やはり魯迅周作人兄弟が編訳した外国文学アンソロジーたる『域外小説集』(1909)、『現代小説叢書』(1922)等を取り上げ、彼らが日本文学へと行き着く階梯について考察を行う。最終的には、魯迅周作人の取り上げた作家に止まらず、近代中国における日本文学受容の全体像の解明を企図する。

3. 研究の方法

『現代日本小説集』収録作以外、また魯迅・周作人以外の、中国文壇全体の動向と、中国に紹介、移入された「近代日本文学」全体の状況を把握、分析していくことに力点を置く。『現代日本小説集』は、当時日本で流行していた「自然主義」文学を敢えて取らないことや、人道主義の精神から社会低層の人々や女性、児童を描いた作品を多く収めるといった特徴を有する。それは、以前の訳業『域外小説集』(1909・1921)や『現代小説叢書』(1922)(いずれも西欧文学翻訳集)の対象たる「被抑圧・弱小」民族(中国民族との相同性)への共感にも通底するものであり、こうした傾向はまさしく魯迅・周作人兄弟の目指したものであった。だが、当時においても魯迅・周作人とは全く異なる傾向を示す中国の文学者も少なくなかった。

各雑誌に掲載された日本文学翻訳・紹介、また出版刊行された日本文学翻訳単行本を徹底的に渉猟し、それぞれの日本作家の翻訳、評論文章の著者がどういう人物であるのか、彼らは日本語、日本文学と如何なる接点を有するのか、また同時にその周辺(文学傾向、活動)の状況についても、詳細な調査を進める。そうした調査を通じて、日本近代文学が、中国における異なる文学観、歴史、制度の中で、どのように受容され、異化されていったのかを究明する。また、各作家・作品に対する中国(及び台湾)での評価が、日本での評価とどのように異なるかにも注目して、中国(台湾)と日本の文学観、引いては民族、文化基盤の相違について考察を行う。

対象とする個別作家として、芥川に続いては佐藤春夫(拙稿「植民地台湾を描く視点 佐藤春夫『霧社』と頼和「南国哀歌」」(1994)、「魯迅と佐藤春夫 散文詩集『野草』をめぐって」(2013)等参照)や有島武郎ら比較的注目されてきた作家、そして内外の研究蓄積も多い漱石、鷗外へと進め、さらにこれまでほとんど顧みられたことのない作家へと研究を進める予定である。また、藤村、啄木、宮沢賢治等、『現代日本小説集』に収録されないが、日本と中国の文学交流の上で重要と目される作家にも研究範囲を広げていき、近代中国における日本文学受容の全体解明に取り組む。

4. 研究成果

従来当然の如く版本は基本的に一種類と見做されてきた近代の文芸雑誌について徹底的な調査を行った。その結果、まずは魯迅ら当時の先鋭文学者の集った『語絲』の版本には多くの版種が存在することが明らかになり、これまで誰も気付かなかったテキストの相違、版本の形成過程についての新発見を報告した。以下、具体的な研究成果の内容を報告する。

近代文学における中国と日本との接点、中国における日本近代文学の受容に関する研究として、当該研究初年度たる今年においては、研究担当者がこれまで取り組んできた魯迅を中心とする中国近代文学現象の研究と関連文献の調査を開始した。

2018 年度においては実績として、一年間に以下 1 件の共著書と、3 篇の学術論文を執筆した。共著：『当代文芸評論視域中的魯迅伝統』(ISBN:978-7-02-013899-9) 曹衛東編 [孫郁ほか 26 名執筆] 2018 年 4 月、人民文学出版社 (北京) 刊。分担執筆「“ 敵人 ” 对魯迅《野草》的影響」では、日中の架け橋たる魯迅の代表詩集『野草』を巡る問題点を新たな視点から探求した。論文「台湾文学とは何か 言語そして日本」(『北九州国文』第 45 号 福岡県高等学校国語部会 2018 年 5 月)では、台湾文学と日本の複雑さを新機軸によって解説した。「成仿吾与魯迅《野草》」(『済南大学学报(社会科学版)』第 28 卷第 3 期 119-126 頁 2018 年 5 月)、『中国現代、当代文学研究』2018 年第 8 期 [中国人民大学書報資料中心] 転載)では、魯迅作品の原点について新発見を披露した。張明敏氏との共著「一台湾作家の訳した魯迅 楊達編「中日文対照」中国文芸叢書」『阿 Q 正伝』をめぐって」(『野草』第 101 号 25~49 頁 中国文芸研究会 2018 年 10 月)では、台湾の研究者と共同で、台湾における魯迅翻訳を、日本の中国文学者増田渉の介在に注目しつつ新たな視点から解説した。

研究タイトルたる「翻訳、雑誌メディアから辿る、近代文学における中国と日本の接点の研究」として、当該研究二年目に当たる 2019 年度においては、まず「メディア」の点から研究を進めた。さらには、研究担当者の専門分野たる魯迅を中心とする中国近代文学現象の研究と関連文献の調査に引き続き従事した。

実績として、一年間に以下 1 件の共著書と、2 篇の学術論文、加えて 2 篇の学会提出論文を執筆した。共著：『魯迅在伝統与世界之間』(ISBN: 9787511560100) 孫郁主編 [張夢陽ほか 28 名執筆] 2019 年 5 月、人民日報出版社 (北京) 刊 (2017 年度中央高等建設世界一流大学特色發展引導專項資金による出版)。本書中、分担執筆の「成ホウ吾与魯迅《野草》」において、魯迅の散文詩集『野草』及び日本留学経験のある成の文学を通して、魯迅文学を再照射すると共に中国と日本の交流について意見を提示した。論文「周氏兄弟と『新青年』 版本調査に基づく新たな視角」(『文化論集第 55 号：「周作人国際学術シンポジウム」特集号』 早稲田大学商学同攻会 2019 年 9 月)では、近代中国において最も影響力の大きかった雑誌『新青年』を取り上げ、従来全く気付かれていなかったテキスト上、版本上の極めて重大な問題を発見した。内外の学会において、大きな注目を得た。「中日学術研究に横たわる隘路 周作人編『現代日本小説集』研究を例として」(『言語科学』第 55 号 九州大学言語文化研究院 2020 年 3 月)では、主たる研究対象たる『現代日本小説集』の特に本場中国における研究状況を紹介すると共に、その重篤たる欠陥を明らかにした。

日本文学を中国文学の視点、つまり異なる文学観、歴史、制度からどのように選択・受容されたかを究明し、日本における認識との相違点等を分析するという研究目的に根ざした、本研究「翻訳、雑誌メディアから辿る、近代文学における中国と日本の接点の研究」、当該研究三年目に当たる 2020 年度においては、近代中国と日本の雑誌・メディアに一層注目しつつ、研究を進めた。また、研究担当者の専門分野たる魯迅を中心とする中国近代文学現象の研究と関連文献の調査に引き続き従事した。

実績として、一年間に以下 2 篇の学術論文を執筆した。「芥川龍之介与魯迅」(中国語による執筆)(『世界漢学研究』【2021 新春專欄 web 掲載】 世界漢学研究会 2021 年 2 月)では、芥川作品(「鼻」「羅生門」)を中国で最初に翻訳した魯迅と日本近代文学の深く微妙な関係を、従来とは異なる視点から読み解き、学界に注目を得た。該論文を通して、魯迅や近代中国の文学者が自己の作品・翻訳等の文章発表に当たって、掲載雑誌(メディア)の選択を如何に強く意識していたかが明らかになった。「成ホウ吾「詩之防禦戦」と北京星星文学社『文学週刊』 再論：魯迅『野草』と成ホウ吾」(『言語科学』第 56 号 九州大学言語文化研究院 2021 年 3 月)では、研究担当者の「魯迅」研究に対する中国(イデオロギー的に魯迅をやや神格化)からの批判を論駁するとともに、新たな発見を提示した。特に、稀覯書に属する新聞『文学週刊』の詳細な調査によって近代中国の文学団体創造社の知られざる内実に迫ることに成功した。

2021 年度においては実績として、一年間に以下、分担執筆による共著が 1 冊、それに 2 篇の学術論文及び 1 篇の研究ノートを執筆した。共著：『日本漢学中的上海文学研究』(王光東他編 2021 年 10 月、上海遠東出版社刊) 分担執筆「成ホウ吾与魯迅『野草』」では、近代中国文壇の代表的作家組織「創造社」と魯迅の関係について、新しい視点から従来の見解を矯正した。論文「魯迅与北京星星文学社『文学週刊』」(『魯迅誕辰 140 周年“魯迅与現代文化價值重建” 国際学術研討会(第六屆紹興文化峰会)』論文集』 2021 年 9 月)では、これまで殆ど注目されなかった文芸誌を北京大学図書館から発掘、そこに秘められた魯迅を巡る当時の文壇の確執の実際を明らかにした。「散文詩人・徐玉諾と魯迅『野草』」再論 文学上の交流、エロシエンコそしてカール・ヨネダ(米田剛三)」(『言語科学』第 57 号 九州大学言語文化研究院 2022 年 3 月)では、北京大学でエスペラントを講じた反体制派のロシア盲目詩人を巡り、魯迅と周作人に徐玉諾そして日本のプロ文士米田剛三の出会いとそして別れについて仔細に論じた。研究ノート「山上正義「阿 Q 正伝」について 【国際プロレタリア叢書】(1931)と『大魯迅全集』(1937)の二種の翻訳(附：耿庸「胡風宛書簡」発見と楊達の使用した版本についての補足)」(『言語文化論究』第 47 号 九州大学言語文化研究院 2021 年 10 月)では、魯迅の代表作「阿 Q 正伝」の日本及び台湾における翻訳状況について、新発見資料に基づいてレポートした。「關於紹介給台湾的“兩種”『阿 Q 正伝』」(『魯迅研究月刊』2021 年第 10 期(総第 474 期)【紀念『阿 Q 正伝』發表一百周年】 2021 年 10 月)は、中国の代表的魯迅研究誌の外国人による研究特集に採録された拙文である。このほか、3 回の国際学会発表を行った(詳細は「研究発表欄参照」)。

最終年度 2022 年度には実績として、この一年間に以下、分担執筆による共著が 1 冊、それに 2 篇の学術論文及び 1 篇の「近現代文学 学会展望」を執筆した。共著：『本味何由知—<野草> 研索新集』（郜元宝編 2022 年 8 月、復旦大学出版社刊）分担執筆「魯迅《野草》得名試論」では、近代中国文学の父と称される魯迅の代表作『野草』について、その成立過程から仔細に調査を行い、新発見資料を駆使して従来の見解を矯正した。論文「魯迅与日本大正文壇—以佐藤春夫為線索」（『紹興文理学院学報』第 42 卷第 11 期〔総第 361 期〕 2022 年 11 月）では、魯迅文学との関係は数多く論じられつつも外枠に留まっていた佐藤春夫との関係を端緒として、芥川等大正文学と魯迅文学の想像以上の深い関係について、新発見文献を紹介しつつ論じた。「魯迅『野草』の掲載誌『語絲』について 「愛知県立大学」所蔵“原本”の発見」（『周氏兄弟研究』第 1 号【特集「周氏兄弟と 1920 年代—『新青年』から『語絲』へ】」 2023 年 3 月）では、従来当然の如く版本は基本的に一種類と見做されてきた近代の文芸雑誌について徹底的な調査を行った。その結果、まずは魯迅ら当時の先鋭文学者の集った『語絲』の版本には多くの版種が存在することが明らかになり、これまで誰も気付かなかったテキストの相違、版本の形成過程についての新発見を報告した。また日本における中国研究の中心雑誌『日本中国学会報』（第七四集）の「2021 年 学界展望【文学・六 近現代文学】」を執筆し、一年間の研究動向を総覧した。このほか、4 回の国際学会発表を行った（詳細は「研究発表欄参照」）。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 1
2. 論文標題 「魯迅与北京星星文学社『文学週刊』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『「魯迅誕辰140周年 “魯迅与現代文化價值重建” 國際學術研討會（第六屆紹興文化峰会）」論文集』	6. 最初と最後の頁 679,687
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 57
2. 論文標題 「「散文詩人・徐玉諾と魯迅『野草』」再論 文学上の交流、エロシエンコそしてカール・ヨネダ（米田剛三）」	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 九州大学言語文化研究院『言語科学』	6. 最初と最後の頁 35,54
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 47
2. 論文標題 研究ノート：「山上正義訳「阿Q正伝」について 【国際プロレタリア叢書】（1931）と『大魯迅全集』（1937）の二種の翻訳（附：耿庸「胡風宛書簡」発見と楊達の使用した版本についての補足）」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語文化論究』	6. 最初と最後の頁 51,63
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 2021年第10期（総第474期）
2. 論文標題 「關於紹介給台湾的“兩種”『阿Q正伝』」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『魯迅研究月刊』	6. 最初と最後の頁 9,11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 2021新春專欄
2. 論文標題 「芥川龍之介と魯迅」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『世界漢学研究』	6. 最初と最後の頁 20-30
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 56
2. 論文標題 「成ホウ吾「詩之防禦戦」と北京星星文学社『文学週刊』 再論：魯迅『野草』と成ホウ吾」	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 『言語科学』	6. 最初と最後の頁 27-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 55
2. 論文標題 周氏兄弟と『新青年』 版本調査に基づく新たな視角	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『文化論集第55号：「周作人国際学術シンポジウム」特集号』（早稲田大学商学同攻会）	6. 最初と最後の頁 103～126
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 55
2. 論文標題 中日学術研究に横たわる隘路 周作人編『現代日本小説集』研究を例として	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『言語科学』第55号（九州大学言語文化研究院）	6. 最初と最後の頁 41～54
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 -
2. 論文標題 印度詩人泰戈爾與魯迅的時代	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 魯迅與五四新文化 紀念五四運動一百周年国際学術研討会暨2019年中国魯迅研究会年会学術論文集（下）	6. 最初と最後の頁 608～612
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 -
2. 論文標題 中国人日本留学生と近代日本文壇の接点 魯迅周作人兄弟の翻訳を端緒として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東アジアの民主主義を台湾から考える 雷震日本留学百年記念・逝去四十周年記念国際シンポジウム論文集	6. 最初と最後の頁 55～70
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 28
2. 論文標題 成ホウ吾与魯迅《野草》	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 済南大学学报（社会科学版）	6. 最初と最後の頁 119-126
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 秋吉 收	4. 巻 45
2. 論文標題 台湾文学とは何か 言語そして日本	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 北九州国文	6. 最初と最後の頁 7-24
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 張明敏、秋吉 收	4. 卷 101
2. 論文標題 一台湾作家の訳した魯迅 楊達編「“中日文対照”中国文芸叢書」『阿Q正伝』をめぐって	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 野草	6. 最初と最後の頁 25-49
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

〔学会発表〕 計13件（うち招待講演 7件 / うち国際学会 10件）

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 「魯迅与北京星星文学社『文学周刊』 以周靈均『サン詩』為線索」
3. 学会等名 中国魯迅研究会主催『紀念魯迅誕辰140周年“魯迅与現代文化價值重建”國際學術研討会』（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 「現代中国对日本大正文壇的訳介与接受」
3. 学会等名 『第3回山東論壇 文明互鑑：東亞人文交流与相互認知』（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 「創造社の三個“批評家” 圍繞成ホウ吾与魯迅的論戰」
3. 学会等名 『創造社百年紀念學術研討会』（國際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 魯迅『野草』新論 與日本現代文学の交流為中心
3. 学会等名 中南大学文学与新聞傳播学院學術講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 印度詩人泰戈爾與魯迅の時代
3. 学会等名 魯迅與五四新文化 紀念五四運動一百周年國際學術研討會暨2019年中国魯迅研究会年会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 交差する日本現代文学と中国文学 魯迅研究の視点から
3. 学会等名 中国日語教学研究會2019年度學術大會暨日本学研究國際研討會（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 現代中国文学和日本文学の交流 - 以周氏兄弟和一个日本女作家為中心
3. 学会等名 杭州師範大学 外国語学部日本語日本文学 講座（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 中国人日本留学生と近代日本文壇の接点 魯迅周作人兄弟の翻訳を端緒として
3. 学会等名 東アジアの民主主義を台湾から考える 雷震日本留学百年記念・逝去四十周年記念国際シンポジウム（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 現代中国文学和日本文学的交流 近代文学における日本と中国
3. 学会等名 講座「アジア共同体への展望 - 文学・文化の伝統と共有 -」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 錯綜的周作人和魯迅 從『新青年』上的「隨感錄」談起
3. 学会等名 首届周作人国際學術研討会 基礎資料的鉤沈與整理（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 周氏兄弟与『新青年』 以『隨感錄』為中心
3. 学会等名 北京大学中国語言文系、中国現代文学研究会主催『周氏兄弟與文学革命學術研討会』（国際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 “台湾的魯迅”与日本語版《阿Q正伝》
3. 学会等名 中国魯迅研究会・海南師範大学文学院主催『魯迅與中国現代文芸復興思潮國際學術研討会暨2018年中国魯迅研究会年会』（國際学会）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 秋吉 收
2. 発表標題 第二言語教育と時代相 日中戦時下における中国語教育瞥見
3. 学会等名 『第一回北東アジア言語教育研究会』（國際学会）
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計3件

1. 著者名 秋吉 收（分担執筆）	4. 発行年 2021年
2. 出版社 上海遠東出版社	5. 総ページ数 406
3. 書名 『日本漢学中的上海文学研究』	

1. 著者名 孫郁主編 [張夢陽ほか28名執筆]	4. 発行年 2019年
2. 出版社 人民日報出版社（北京）	5. 総ページ数 405
3. 書名 魯迅在伝統与世界之間	

1. 著者名 共著	4. 発行年 2018年
2. 出版社 人民文学出版社（北京）	5. 総ページ数 301
3. 書名 当代文芸評論視域中の魯迅伝統	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------